

安全衛生だより第10号

1. 11月全国行事

- | | |
|----------------|-----------|
| 1) 特定自主検査強調月間 | 11月1日～30日 |
| 2) ボイラーデー（韃祭り） | 11月8日 |
| 3) 秋の全国火災予防運動 | 11月9日～15日 |

2. 安全・衛生・防災の心得 : 墜落・転落災害の50%は高さ1メートル以内

死亡を含む重篤な労働災害の中で高所からの「墜落・転落災害」が1位を占めています。高所からの墜落・転落といえば5mや10mの高さを想像しますが、墜落・転落災害の多くは2m以下の高さからです。そして1mほどの高さであっても次のような死亡事例が発生しています。

- ≡ 建物の壁面の塗装作業が終わって梯子で降りる際、足を踏み外して1m下の側溝に転落し、頭部を打撲して死亡。
- ≡ トラックレーンの荷台で玉掛け中、95cmの高さから転落してコンクリートの床で頭を強打して死亡。
- ≡ 室内の照明器具を清掃中、高さ1.2mの脚立の踏み面から転落して頸椎損傷で死亡。
- ≡ 工場内の階段を降りる際、足を滑らせて転落し、背部及び頭部打撲で死亡。
- ≡ 高さ80cmのコンベヤーの上に乗って荷物を取扱い中、急にコンベヤーが動いたため床に転落して死亡、など。

これらの災害事例に共通していることは、本人も周りの人も、高所作業という意識がなく、そのため墜落・転落対策が不備で、保護帽についても被っていない人が大半だったことです。また、頭部を強打した際、病院での検査や治療を行わなかったなどの問題がありました。



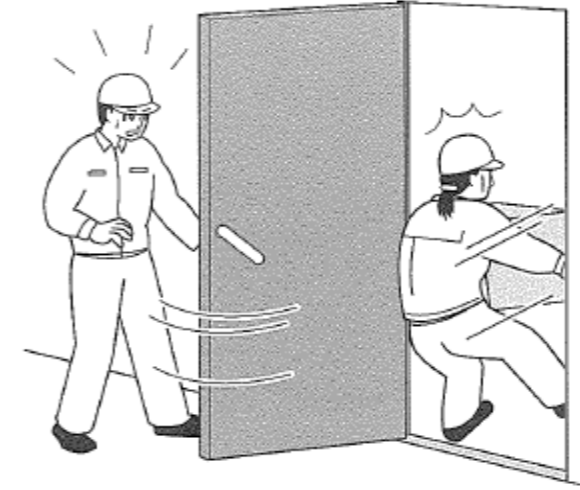
高さ1mは「一命取る」・・・



3. 他社 事故・災害事例から：背部で押した扉が開けられて転倒

(1) 災害発生状況

事業場の部品倉庫で女性作業員（35歳、勤続15年）が、倉庫の中から段ボールに入った部品（約10kg）を両手で抱えて、出入口の鉄製扉を背部で押したところ、たまたま同僚が外側から扉を開けたため、体が空を切っただけで転倒し、腰部打撲等で休業5日の災害になりました。



(2) 災害発生原因と補足事項

- ①被災者が後ろ向きに背中で扉を開けたこと。
- ②当該鉄製扉は、以前から開閉操作に力が必要で、強く押し引きしなないと開閉がうまくできない状態だったこと。
- ③したがってこの扉については、以前から習慣的に足や背部で強く押し引きして開閉していたこと。
- ④扉が不良な状態で放置されていたこと、など。

(3) 再発防止対策

類似災害の防止のためには、次のような対策の徹底が必要です。

- ①開閉がスムーズにできない扉等は直ちに調整したり修理する。
- ②扉を背部や足で押すなどの、乱暴な開け方はしない。（荷物は一旦下に置いて手で開ける）
- ③扉を押し開ける際は、向こう側に人がいることを予測して静かに開けるよう習慣化する。
- ④開閉扉等は、向こう側が見えるよう、窓等を設置する。
- ⑤物品の運搬はできるだけ台車などの運搬用具を使用する、など。

●環境安全部より：

セキュリティ重視のためドアや扉は建物出入口だけでなく内部も閉めておくことが基本です。今回取り上げた事例のように両手がふさがった状態で背中で扉を押し開けるような行為は絶対にやめましょう。また扉の開閉時には、あやまって手を挟んだり、人や扉にぶつかったり等多くの危険が潜んでいることを理解し、向こう側が見えない扉には、必要に応じ人感センサーの取付等の未然防止措置を検討しましょう。

4. 当社 良い事例（抜粋）

●平塚第二工場（防錆）

①自動搬送式倉庫導入により動線を改善



②固体潤滑塗装ラインのクリーンルーム化により作業環境を改善



5. ヒヤリハット事例

●事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	作業中
どこで	化成棟大型ライン
何をしている時に	ラインエンドでエアブロー作業中
どうなった	床が滑って転びそうになった (別の作業員が剥離終了後にその場所でシャワーリングしたようで床が滑りやすくなっていた)